

びとう和広 市政報告

発行日：2017年7月5日

発行者：三田市議会議員
びとう 和広

びとう市議、市民と創る安心な三田を訴える！

6月5日～6月26日に開催された三田市議会本会議において、皆様の声をもとに、びとう市議は以下の2項目について一般質問し、市の見解を求めました。



一般質問するびとう議員

<びとう議員の三田市議会本会議：一般質問項目>

- 1 三田市のまちづくり
- 2 危機管理と安全整備

三田市議会本会議 定例会とは？

市議会本会議は三田市の最高決定機関で、三田市政全般にわたる事項が扱われます。予算の検証・補正、条例審査等を、3・6・9・12月と3ヶ月ごとに定例に行ないます。特に、3月に予算、9月に決算の審議が加わります。定例会とは別に、臨時議会として、議会役職の改選や緊急課題で開催されます。



森市長は「日本一住みたいまち三田」に向け、「子育てするならゼツタイ三田」に加え、「明日の風が見えるまち三田」をキャッチフレーズとしました。子育てと併せて、「生活・産業都市」として、成熟したまちづくりを、総合的に進められることを期待いたします。

三田市は、1981年からニュータウン開発から人口が急増し、1987年から10年連続人口増加率日本一の後、緩やかな増加となり、2011年9月末（住民基本台帳）11万5061人の人口ピークから緩やかに減少し、今、急激な少子化・高齢化・人口減少を迎えています。

今回の質問は、大きな転換期を迎えた三田市において、市民が、安心して、住み・働き・憩い・学び続けられる、元気な三田のための施策を大きく2点、確認しました。

本号では、びとう議員の質問内容および三田市の答弁のポイントをお知らせします。

<びとう議員の質問>

<三田市の答弁>

1 三田市のまちづくりについて



市長は、今年4月第4次総合計画後期本計画の中で、緑豊かな住宅都市として発展した三田市が、成長から成熟に、そして「住宅都市」から「生活・産業都市」へ転換が必要で、「まちの成熟」が鍵といわれる。

(1)「住宅都市」から「生活・産業都市」への転換

歴代市長も単なるベッドタウンではなく、職住近接をめざし、住み働き憩い学ぶまちを目指してきた。

今回、「産業創造戦略懇話会」が立ち上がったが、どのように「生活・産業都市」へ転換するのか？

(2) 厳しい財政収支見通しの精査

今後10年間の三田市中期財政収支見通しでは、今後7年間で71.4億円の赤字と非常に衝撃的だが、むしろもっと厳しいはずである。昨年度は国や県からの交付税・支出金は、予算より大きく下回ったのに、今年度予算を同額で見込んでいるし、インフラや公共施設の改修や更新に掛かる費用が入っていない。財政収支見通しの上に重ねた数字こそ、三田の本当の課題なのではないか？運用コストを含めた費用ベースの収支見通しをきっちりと出すことで、市民に理解同意が得られ、本当の危機意識が生まれるものと思うがどうか？

第4次総合計画後期基本計画に掲げた通り、本市の目指す「成熟のまちづくり」を実現するための柱として3つの目標 ①地域の創生 ②まちの再生 ③人と人との共生、の推進が重要である。特に地域の創生は、三田を元気にするための要素として三田に多くの人が集い、活躍する多様な機会を創出することが必要である。

(1)「住宅都市」から「生活・産業都市」への転換

三田で育った子どもたちも学校卒業後、多くが首都圏を始め県外に就職する。若者や子育て世代に三田に住んでもらうためには、企業誘致で働く場を確保し、三田の魅力である農業や新創業などにチャレンジする環境を整え、「生活・産業都市」へ転換する。また高齢者にも豊かな人生経験を生かせる職場をより多く提供し、いつまでも元気で生活できるまちにつながる。

本年5月発足の、市長ほか学識者などで構成する三田市産業創造戦略懇話会で、本市の産業総合蔵政策に関し多角的な視点と専門的な見地に基づく幅広い意見を頂戴している。誰もが働くことを通じて生きがいを持ち、人と人が心を通わせ、地域が元気になっていく、そんなまちを目指す。

(2) 厳しい財政収支見通しの精査

平成38年度までの今後10年間の三田市の財政の収支の見直しを行った。健全財政を意識しつつ今後の具体的な取り組みを検討する上で、非常に重要なものと位置づけている。したがって財政に影響及ぼすことが明確な投資的な事業等は、見通しに反映することが市民に財政状況を正しく示し、適切に行財政構造改革を行う上でも欠かすことができない。公共施設の改修・更新にかかる経費は現時点では具体的に実施時期や事業費等が明確でないため、反映していない。

1 三田市のまちづくりについて (続き)

(3) 公共施設等マネジメント改革の進め方

三田は延床面積削減が目標値だが、三田市民のニーズに合った施設を、財政収支の体力に見合った管理することが必要で、公共施設のあり方を市民に提示し、一緒に進めていくことが肝要だと思うがどうか？

(4) 三田に住みたいと思わない「働く若者」の視点の必要性和「子育てするならゼツタイ三田」の検証

三田で働く若者との意見交換会で、大きな衝撃を受けた。若者の多くが三田に住みたいと思わない、と言う。その理由は、①遊ぶならば、阪神地域や大阪神戸周辺にたくさんあり、その点を三田が競っても難しい。②三田からのアクセスが悪く、JR・私鉄・バス・車、いずれも課題がある。③家賃は宝塚周辺とほぼ同額で、管理費等高いケースもある。④車が無いと不便なのに、駅周辺に課題が多い。⑤会社への通勤も駅周辺の状況やバスを使った乗り継ぎが不便で、宝塚方面からだと混み具合が逆になる。等々。

将来的に三田にもう少し楽しむ場所を、と言う声もあるが、そこに税金を投ずるならば、むしろアクセスを良くして、三田は治安の良い、安心して住みやすい環境の方がよい。とのこと。

三田市は若者と言えば学生をイメージし、働く若者を完全に見落としている。三田在住だと、課税総所得金額の6%が市税に入るのに、現在の事業も今後の計画も見通しもない。だからこそ、子育てするならなげすするなら絶対三田、の検証と継続が必要だと考えるが、どうか？

(5) 地域との協定による植栽管理の実態と今後の進め方

厳しい財政だから、地域団体の方々との連携が必要である。最終的には公共施設マネジメントを公開して、多くの協定をお願いできたらと考えるがどうか？

(3) 公共施設等マネジメント改革の進め方

今年度から平成29年3月策定の公共施設等総合管理計画の基本方針に基づき、行行政サービスの適正配置を図り、各公共施設の更新時期をふまえて、公共施設ごとに、今後の改修・更新の方向性を検討し、必要に応じて長期修繕計画や長寿命化計画を策定するなど、所要額の精査と財政状況に応じた標準化を行い、中期財政収支見通しへの反映を行う。

(4) 三田に住みたいと思わない「働く若者」の視点の必要性和「子育てするならゼツタイ三田」の検証

定住促進策に、働く若者、特に独身者に対する視点が必要という点指摘の通りで、若者が三田に住み働いて三田を元気にしてもらうためには、三田で働く場所の拡大だけでなく、三田に住むための知恵が必要である。

子育てするならゼツタイ三田は、教育、福祉、医療など様々な分野で制度拡充、環境整備を行い、豊かな自然と美しい街並みの環境を活かし、医療費の助成を始め「質の高いサービスで子育てを応援するまち三田」を積極的にPRし、子育て世代の転入と定着に、平成23年2月から用いてきた。

市として積極的に取り組んだ結果、就学前人口の増加など子育て世代の流入に一定の成果があったが、最近では他市との優位性が低下している。限られた財源を、効果的に、市全体の重要施策のバランス等を勘案し、産み育てていく環境を整備し人口を増やしていくと言う大きな視点から、今後幅広く議論を深める。平成27年度策定の三田版総合戦略で、三田市の6つの魅力の1つとし、積極的推進継続として進める。「学びの都(まち)三田」と言う新たなブランドを創出するためにも、「子どもたちの夢や希望を育む保育・教育は、未来への投資」と位置づけて取り組む。

(5) 地域との協定による植栽管理の実態と今後の進め方

現在、45路線の市道で38件の協定を締結し、市が肥料や除草剤等の支給、まちなか花ざかり事業における花苗の配布等により、市民の共同による植栽管理活動を支援している。今後、取組みを広く周知し、市民が発案できる環境を作り、協働のまちづくりのモデルとして取り組む。

2 危機管理と安全整備について



災害は今起こるかもしれない。

水害ははじめ多くの災害想定され、いざというとき、被害を最小限に抑える日ごろからの防災意識と備えが肝要です。

(1) ゲリラ豪雨の実態と対策

6/1の21時ごろ一時的な大雨で、三田駅前の歩道橋から滝のように流れ落ちる雨水の映像がインターネット上に出た。気象庁データも大雨程度で警報も出ていない。細かい気象情報を把握し予報できる仕組みとインフラが必要では？

(2) 三田駅周辺の駐車実態と対策

路上駐車やロータリーの満車で、駅周辺が走りにくい。単に規制だけでなく、抜本的な対策が必要では？

(3) 自転車専用レーンの周知と道路整備

周知と安全道路整備優先だと思うがどうか？

(4) 道路照明の管理と整備

照明管理の迅速な対応と連携の仕組み、入札仕様への復旧条件付加するなどが必要では？

(1) ゲリラ豪雨の実態と対策

自ら危険を判断し迅速な行動、適切な情報取得が肝要である。気象庁は、市内1ヶ所の降雨情報を提供しているの、市はホームページで、降雨量情報12ヶ所、ライブカメラ河川情報5ヶ所を提供している。情報の周知、情報取得の防災アプリ紹介等も検討する。

下水道施設の雨水処理能力は標準だが、排水ルートの変更等対策を図り、速やかな雨水排水に努める。

(2) 三田駅周辺の駐車実態と対策

夕方等に駅周辺県道の路上停車が多く、通勤通学ピーク時に駅前ロータリーが混雑する。現場道路の拡幅や駅南広場に常に駐車できる状態にするにはスペースの問題等により現状不可能であり、駅南ロータリー利用者に対し駅北ロータリーへの利用案内や道路に違法駐車がある場合は警察の取締まりをお願いするなど連携を図る。

(3) 自転車専用レーンの周知と道路整備

昨年度、自転車走行空間の確保や自転車利用環境の改善を目的に「三田市自転車ネットワーク」を策定した。生徒指導や広報紙や市ホームページへの掲載など啓発活動など連携を図り進めている。

(4) 道路照明の管理と整備

街路灯の内LED化した多くはリースに保守管理も含め契約し、球切れ等は保守体制の確保について受託者と調整する。

<自宅> 〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号

Tel: 079-562-8653, Fax: 079-562-0730

<電子メール> bit@venus.dti.ne.jp

<ホームページ> http://www.bitto-kazuhiro.com



三田市議会議員

びとうかずひろ 和広

